

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に受験学部・学科コード、受験番号、氏名を記入すること。

〔解答用紙記入例（選択式の場合）〕

例一．〔語群〕が二桁で

11	大阪
13	長崎
12	佐賀
14	東京
とある場合	

例二．〔語群〕が一桁で

1	大学
3	高校
2	中学校
4	小学校
とある場合	

問 X	
16	17
/	2
18	19
/	4
20	21
/	/
A	
B	
C	

Aの解答が佐賀の場合  
Bの解答が東京の場合  
Cの解答が大阪の場合

問 X	
51	
/	a
52	
4	b
53	
2	c

aの解答が大学の場合  
bの解答が小学校の場合  
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

二〇二〇年、COVID-19（いわゆる新型コロナウイルス）による新型肺炎の世界的流行は、政治・社会・科学の相関関係に  
 関しても、新しい論点を造り出した。<sup>a</sup>緊急事態を前にして、政治が待ったなしの政策決定を迫られる一方で、課題に関して専門  
 家の手にある知識と経験は極めて少なく、それでも、専門家グループは、政策担当者に、選択肢の提示、その評価付けに関し  
 て、ある程度の情報を提供しなければならない、という事態に追い込まれた。

もともと日本では、本格的な疫学研究が、育ちにくい環境に置かれてきた。疫学者と称する人々も、実験室で試験管をいじる  
 ことで研究は進められるという、勘違いが結構目立ってきた。<sup>b</sup>特に単年度制の予算措置が障害となつて、集団の追跡研究のよう  
 な、極めて長期の基礎研究が実行しにくい構造的な問題を抱えている。

このような点を前提にすると、今回のコロナウイルス禍において、専門家グループが政治と関わる姿勢は、幾分か **A**  
 のところがあつて、これは世界的に見ても、共通の状況であつたと思われる。それが証拠に、今回各国の政策決定者が採つたす  
 べての選択肢は、いずれも、**B**に短し擲に長しで、「これだー!」と思わせる例はカーム<sup>イ</sup>であつた。アメリカやブラジルの  
 ように、当初専門家の見解をほとんど無視する選択肢を選んだ国もあつたし、社会免疫の獲得を目指して、当初ほとんど何も対  
 策を取らなかつたように見えるスウェーデンのような例もあつた。いずれも、その後現在では（二〇二〇年末）、徐々に政策の変  
 更を余儀なくされている。

日本では、むしろ早期の学級閉鎖、やがて、時期を限つて行動のジシユク<sup>□</sup>を社会全体に要請するという、一般常識に則<sup>のつと</sup>つた政  
 策が採用された。それは、色々と後知恵の批判はあるが、少なくとも致命的な失敗を犯すことは免れたと評価できる措置であつ  
 た。こうしたことの裏には、日本の最も強力な専門家集団<sup>d</sup>として、常に政治と密着している官僚組織の存在があつた、と私は考  
 えている。それが、日本社会における、政治と専門家集団との関係を論じる際の、良くも悪くも最も顕著な特色ではないか。

別段これが全面的に悪であるわけではない。それどころか、多くの場合は、官僚組織の中でまとめられた結論は、有効であ

り、差し当たって、良策とされてよいものである。それはそうだろう。彼らの手には、通常の手段ではとても集めることのできないような、必要なデータが集まっており、過去の歴史的経緯についても、充分な量の情報が揃<sup>そろ</sup>っている。そして、それを取り扱う人々は、最高学府を優秀な成績で卒業したエリートたちである。そうした人材によって担われる研究が質の高いものであるのは当然である。普通、官僚組織の中で行われる様々な行為を「研究」とは呼ばない。従って彼らは「研究者」とは呼ばれないし、その自意識も希薄かもしれないが、実際上は、明確な研究活動である。ただし、そこで行われる研究は、好奇心駆動型と

**C** 型に分ければ完全に後者である。通常、大学や研究所で研究者が携わる研究は、何ほどかは好奇心駆動型の性格を備えていて、百パーセント **C** 型のものを「研究」とは呼びにくいところから、官僚組織の中の知的活動を「研究」とは見なさない伝統が生まれたとも言える。

いずれにせよ、海外での有力な私立の政策集団が、シンクタンク(頭脳集団)として機能しているところを、日本では、官僚組織が担っている。こうした事情にあるとき、専門家グループと政治担当者との関係は、官僚組織を間に挟んで、いささか複雑な関係が生じる。例えば、専門家グループの一部は、官僚組織と関係を結ぶことによって政治担当者とな<sup>ハ</sup>がることをキヒして、完全にこの三つ巴<sup>どもえ</sup>の外に立ち、ひたすらこの三つ巴で行われることを批判し、反対する、という姿勢をとる。彼らにとって、この三つ巴の中に足を踏み入れることは、「御用学者」のラベルを貼られることになるからであり、実際、彼らにとって、この三つ巴の中にいる専門家に対する最も簡単な罵倒のことばが「御用学者」という常套句<sup>じょうそうぐ</sup>なのである。

他方、ごく一部の専門家は、政治担当者との直接的関係を持つことを辞さず、大臣に推されたり、入閣はしないまでも、政治家のブレーンとなることで、政治との距離を短縮することを望むが、大半の専門家の側では、そこまでは踏み込まない。結局は、官僚組織を通じて、政治担当者との間接的な関係を結ぶことによって、予算の獲得など、直接・間接の付加的な報酬を期待する程度にとどまる。しかも、この場合は、自分たちの専門家としての政策的提言が、官僚組織という篩<sup>ふるい</sup>を通してだけに、直接的な責任を免れる、という利点もある。<sup>e</sup>この構造が、日本の政治空間において、責任の所在を曖昧にさせる一因になっていることは確かだろう。



他方、市民レベルの人々、つまり普通の意味での非 D の政治参加は、現在の日本では、間接民主主義制度が採用されているため、通常は政治を直接担う立場の人々を選ぶための選挙以外には、ほとんど関わりを持つ機会がない。この点は、市民層の漠然たる不満や苛立ちを醸成する要素の一つになっている。

もう一つ、SNSの発展は、意外な副産物を生んでいる。無論、SNS上に流れる情報のなかには、およそ相手にする必要のないようなナンセンスが多く含まれているのは事実だが、それでも、SNSを通じて、一般市民が様々な専門的な情報源に辿り着く可能性は、格段に増えている。例えば、医師でも自分の専門外の新しい研究成果に十分な知識を持っているわけではないのは当然だが、本来専門的な診断や治療のために存在する高度医療機関ではない家庭医などでは、SNS上で自分の病状をかなりの程度突っ込んで確認し、その前提で診察を求める患者が増えていて、稀な病気では、医師の方が患者の自己診断による病名も知らない、というような事態さえ起こっている。

このような、裏返し状態のなかで、科学・技術の専門性と、社会を構成する一般市民との間の関係は、文字通り一筋縄ではないほど複雑な様相を呈しているが、解決策はあるのだろうか。

個々の研究者、とりわけ、研究成果を挙げることに一分、一秒を争っている理工系の研究者にとって、その目の向く方向に、一般社会などは、全く存在しないのも同然であろう。このことを批判するのはたやすいが、しかし、それをキョウセイすることは至難、いや不可能である。そうだとすれば、そうした研究活動の前線で起こっていることに、十分な知識を持ち、関心を払いながらも、一般社会と研究成果との接点に生まれてくる様々な問題をコウリョできる専門家、つまり専門家と一般市民との間の橋渡しのできる専門家、という存在が、問題解決の一つの有力な働き手になることが期待される。

無論、このような専門家の育成が困難な技であることは確かだが、日本の幾つかの大学でも試みはあり、僅かずつだが前進している。現在、すでに何人かの優れた才能が、開花しつつある。そこから育った人々が、社会の中で有用性を認められ、彼らの専門性を発揮できる時代が、早く訪れることを期待しておきたい。

——村上陽一郎「文化としての科学／技術」による——



問一 傍線部 a「新しい論点」とはどういうものか。適当なものを次の選択肢の中から二つ選び、その番号を記せ。

- 1 専門家グループが知識と経験の不足を補いながら、いかにして政策担当者に的確な選択肢を示すかという論点。
- 2 政策担当者が専門家グループから指図されながら、いかにして疫病の世界的流行から日本社会を守るかという論点。
- 3 専門家グループが政策担当者とは協議しながら、いかにして政策決定を適切に代行するかという論点。
- 4 政策担当者が疫学に関する情報を提供しながら、いかにして専門家グループと共通理解を作るかという論点。
- 5 専門家グループが政策決定者に付度そんたくしながら、いかにして個々の政策の有効性を的確に評価するかという論点。
- 6 政策担当者が専門家グループの意見を聞きながら、いかにして有効な政策を迅速に決定するかという論点。

問二 傍線部 b「勘違いが結構目立ってきた」のはなぜか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 日本では本格的な疫学研究は育ちにくいのに、日本の疫学研究は世界でも最先端であるという過信があるから。
- 2 疫学の研究者たちは十分な研究能力を持っていないのに、その分野の専門家であることを自任しているから。
- 3 疫学研究は室内で実験するだけでは不十分なもののに、疫学者たちは屋外での実験をしたがらないから。
- 4 長期にわたる集団の調査研究が疫学研究には必要なのに、単年度制の予算措置のために行いにくいから。
- 5 かつての疫学研究では長期の基礎研究が重要視されていたのに、近年は応用研究の方が重要視されているから。

問三 空白部 A に入る言葉として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |            |          |            |
|------------|----------|------------|
| 1 えつちらおつちら | 2 やぶれかぶれ | 3 にっちもさっちも |
| 4 おつかなびつくり | 5 のらりくらり |            |

問四 空白部 B に最も適当な漢字一字を入れよ。

問五 傍線部 c「後知恵」とはどういうものか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 新型コロナウイルスに対する理解が浅いまま示された考え。
- 2 新型コロナウイルスに関する政策を担当した者だけが得られる考え。
- 3 新型コロナウイルスの流行が落ち着いてから出る考え。
- 4 新型コロナウイルスについて海外の専門家から与えられた考え。
- 5 新型コロナウイルスを恐れるあまり不必要なことまで想定した考え。

問六 傍線部 d「専門家集団」について説明した次の文章の（ 1 ）（ 2 ）に入る最も適当な言葉を本文からそれぞれ抜き出せ。ただし、（ 1 ）は九字、（ 2 ）は四字で抜き出せ。

この「専門家集団」は、文章冒頭の「専門家グループ」とは異なる集団として書き分けられている。具体的には冒頭の「専門家グループ」が（ 1 ）のことを指しているのに対して、この「専門家集団」は（ 2 ）のことを指している。

問七 空白部 C に入る言葉として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 予算獲得
- 2 使命達成
- 3 名誉欲充足
- 4 限界突破
- 5 利潤追求

問八 傍線部 e「この構造が、一因になっている」とはどういうことか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 研究者が官僚を介して政治家に提言を行っていることが、誰が責任者なのか分からない状況を生んでいるということ。
- 2 御用学者と呼ばれる研究者と政治家が癒着していることが、身内をかばい合う馴れ合いにつながっているということ。
- 3 官僚が実質的には研究もしていることが、研究者による政策的提言への評価をより厳しいものに行っているということ。
- 4 研究者の多くが政治家と距離を取ろうとすることが、誰も提言の責任者になりたがらない傾向を生んでいるということ。
- 5 官僚が政治家と研究者の間に立っていることが、官僚に責任を押しつけようとする事態につながっているということ。

問九 空白部Dに入る最も適当な言葉を本文から三字で抜き出せ。

問十 傍線部f「科学・技術ゝ呈している」のはなぜか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 SNSの発展によって一般市民が医師以上に病気について詳しくなり、医師を信頼しなくなったから。
- 2 SNSの発展が科学・技術についての一般市民の知識をより不正確にもより正確にもしているから。
- 3 SNSの発展によって科学・技術に関するさまざまなナンセンスな情報が広がるようになったから。
- 4 SNSの発展が科学・技術についての世論の形成を促し、一般市民の政治への影響力を強めているから。
- 5 SNSの発展によって一般市民でも科学・技術の専門的な情報を簡単に得られるようになってきているから。

問十一 傍線部イゝ木を漢字に直し、正確に記せ。



〔二〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

これも今は昔、山の横川に賀能知院といふ僧、きはめて破戒無慚むざんの者にて、昼夜に仏の物を取り使ふ事をのみしけり。横川の執行にてありけり。政所へ行くとて、塔のもとを常に過ぎ歩きければ、塔のもとに、古き地蔵aの物の中に捨て置きたるをきと見奉りて、時々きぬかぶりしたるをうち脱ぎ、頭を傾けて、すごしすごし敬ひ拝みつつ行く時もありけり。かかる程に、かの賀能はかなく失せぬ。師の僧都これを聞きて、「かの僧、破戒無慚の者にて、後世定めて地獄に落ちむ事疑ひなし」と心憂cがり、あはれみ給ふ事限りなし。

かかる程に、「塔のもとdの地蔵こそこの程見え給は[ ]。いかなる事にか」と院内の人々言ひ合ひたり。「人の修理し奉らむとて、取り奉りたるにや」などいひける程に、この僧都の夢に見給ふやう、「この地蔵の見え給はぬはいかなる事ぞ」と尋ね給ふに、傍らに僧ありて曰く、「この地蔵菩薩、早う賀能知院が無間地獄むげんに落ちしその日、やがて助けむとて、あひ具して入り給ひしなり」といふ。夢心地にいとあさましくて、「いかにしてさる罪人には具して入り給ひたるぞ」と問ひ給へば、「塔のもとを常に過ぐるに、地蔵を見やり申して、時々拝み奉りし故なり」と答ふ。夢覚めて後、自ら塔のもとへおはして見給ふに、地蔵まことに見え給はず。

「さは、この僧にまことに具しておはしたるにや」と思す程に、その後また僧都の夢に見給ふやう、塔のもとにおはして見給へば、この地蔵立ち給ひたり。「これは失せさせ給ひし地蔵、いかにして出で来給ひたるぞ」とのたまへば、また人のいふやう、「賀能具して地獄へ入りて、助けて帰り給へるなり。されば御足の焼け給へるなり」といふ。御足を見給へば、まことに御足黒う焼け給ひたり。夢心地にまことにあさましき事限りなし。

さて、夢覚めて、涙とまらずして急ぎおはして、塔のもとを見給へば、うつつにも地蔵立ち給へり。御足を見れば、まことに焼け給へり。これを見給ふに、あはれに悲しき事限りなし。さて、泣く泣くこの地蔵を抱き出し奉り給ひてけり。「今におはします。二尺五寸ばかりの程にこそ」と人は語りし。これ語りける人は拝み奉りけるとぞ。

問一 傍線部 a「の」の文法的意味として適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |   |     |   |      |   |     |   |     |   |     |
|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 主 格 | 2 | 連体修飾 | 3 | 同 格 | 4 | 比 喩 | 5 | 感 動 |
|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|---|-----|

問二 傍線部 b「かの僧、破戒無慚の者にて」とあるが、「かの僧」が「破戒無慚の者」であることを最も具体的に表している部分を本文から十八字で抜き出し、その最初の三字を記せ（句読点は含まない）。

問三 傍線部 c「心憂がり」、f「あさましくて」、i「うつつに」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |   |   |       |   |        |   |        |   |          |   |       |
|---|---|-------|---|--------|---|--------|---|----------|---|-------|
| c | 1 | 感 心 し | 2 | 不愉快になり | 3 | 煩わしくなり | 4 | 憂鬱になり    | 5 | 心を痛め  |
| f | 1 | 嬉しくて  | 2 | 興ざめで   | 3 | 嘆かわしくて | 4 | ぼんやりしていて | 5 | 意外で   |
| i | 1 | 夢心地に  | 2 | 現実     | 3 | いつも通りに | 4 | この世に     | 5 | 驚くことに |

問四 空白部には助動詞「ず」が入る。適当な形に活用してひらがな一字で記せ。

問五 傍線部 d「奉り」、g「のたまへ」は、それぞれ誰から誰への敬意を表しているのか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、解答欄の形式に合うようにその番号を記せ。

- |   |       |   |      |   |      |   |       |
|---|-------|---|------|---|------|---|-------|
| 1 | 賀能知院  | 2 | 仏    | 3 | 師の僧都 | 4 | 院内の人々 |
| 5 | 夢の中の僧 | 6 | 地藏菩薩 | 7 | 語り手  |   |       |

問六 傍線部 e「やがて助けむ」を十字以内で現代語訳せよ。

問七 傍線部h「まことに御足黒う焼け給ひたり」はどのようなことの証拠として語られているのか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 地藏菩薩が地獄へ行ってきたこと。
- 2 仏が地藏菩薩を地獄へ落としたこと。
- 3 賀能知院が地藏菩薩を地獄の道連れにしたこと。
- 4 地藏菩薩が賀能知院を地獄へ落としたこと。
- 5 仏が賀能知院を地獄へ落としたこと。

問八 傍線部j「あはれに悲しき事限りなし」の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 僧都は賀能知院までも救った地藏菩薩の慈悲深さにしみじみと感動した。
- 2 僧都は賀能知院が地獄に落とされたことをしみじみとかわいそうに思った。
- 3 僧都は善人を救い、悪人を地獄に落とす仏の裁きの正しさにしみじみと感心した。
- 4 僧都は善人でもあった賀能知院が救われたことをしみじみと嬉しく思った。
- 5 僧都は地藏菩薩が黒く焼け焦げてしまったことをしみじみと気の毒に思った。

問九 「宇治拾遺物語」より後に成立した作品を次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- |      |        |         |       |        |
|------|--------|---------|-------|--------|
| 1 大鏡 | 2 落窪物語 | 3 今昔物語集 | 4 万葉考 | 5 梁塵秘抄 |
|------|--------|---------|-------|--------|